

私のおすすめ この1冊！

写真でマスターする きちんと 確実にできる 全部床義歯の咬合採得

水口俊介・飼馬祥頼 著

A4判・88頁・定価6,825円（税込）

2013年8月14日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

村岡 秀明

（千葉県市川市／村岡歯科医院）

ビートルズがデビューしたのは1962年、私が高校生になったばかりの頃である。それから50年過ぎたが、その頃と今と、総義歯の作り方・考え方は基本的に変わっていない。ビートルズがデビューした頃に指導的立場に立っていた名人が、今もし本書を読んだならば、「フムフム、水口たちは、ちゃんとワシの教えを後世に残そうとしておるな」とほくそ笑んだに違いない。そう言えるほど、この本は基本的な要点をきちんと押さえている。

ただ、当時と今とでは周囲の状況が随分と変わっている。1962年の日本の100歳以上の高齢者数は150人に満たなかったが、2012年には51,376人に増加し、当然のことながら以前よりも難しい症例が増えてきている。となると、総義歯について語る書籍は、単に基本的なことだけを押さえるだけでは物足りないということになる。本書を手にしたとき、写真を中心にした本であることと全体の頁数から考えて、そこまで深い内容を持つことは難しいと考えていたのだが、ところがドッコイ、単なる基本的手技の解説だけでは終わっていない。第Ⅲ章の「様々なケースからみた咬合採得—ここがポイント」では、アングルⅡ級、Ⅲ級の症例、

著しい上下顎の顎堤吸収の症例などについて解説されていて、多くの臨床家を悩ます事柄についても、具体的な手技と解決策が示されている。

それからもう一つ、コラムに注目したい。「知識は伝えられるが、知恵は伝えられない」という言葉がある。50年前から基本的なことが変わっていない総義歯作りなら、もう誰でもマスターしてしまっていそうなものだが、なかなかそうもいかないのは、知恵の部分が伝えられないからだ。昔から「名人の技は教わるのではなく盗むのだ」と言われたものだが、実は名人も教えようがなかったのではないかと思う。ところがなんと、本書のコラムの頁には、水口・飼馬両名人の知恵が凝縮されていて、伝えにくいコツをうまくわれわれに教えてくれている。

ではここで、私なりの本書の読み方を述べてみよう。著者らは、まず4頁の「目次」で各章毎の概略と読み込み方を解説している。そして5頁には手技に入る前に知るべき「咬合採得とは何を採得するのか」ということが書かれている。この5頁から7頁を繰り返し読むことをお勧めする。まず全体像を頭の中に叩き込むことだ。

そしていよいよ8頁以降、実際に



咬合採得を行っていくことになるのだが、この本の素晴らしいところは、写真とキャプションがうまく組み合わせられていることだ。写真が的確に状況をとらえており、長い文章よりも写真とそのキャプションで読ませているので、キャプションを単なる写真の解説と思わず、じっくりと読み込んで、これだと思うキャプションは手書きでノートに写し取る位のことをしたほうがいい。

さらに、第Ⅰ章が「咬合採得のアウトライン」となっていて、基本的な咬合採得の手技が述べられているのだが、私は第Ⅱ章の「作業模型の調整と咬合床の製作—失敗しない咬合床とは？」から読み始めることをお勧めする。そして、読むだけでなく、作ってみるといい。総義歯は排列を含めた技工の部分結構大切で、最終的には技工士さんにまかせるとしても、まず自身でやってみることだ。そうすると格段に理解が深まる。

本書は100頁に満たない書籍である。多くは写真であり、文章は少ない。それだけにエッセンスが濃厚に詰められている。繰り返し読み、大切なところは手書きで丸写しをし、ちょっと技工的な部分も実際にやってみよう。そうすれば、きっとすぐ咬合採得の達人の仲間入りができる。